



キーワードを入力

トップ

速報

映像

個人

特集

みんなの意見

ランキング

有料

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

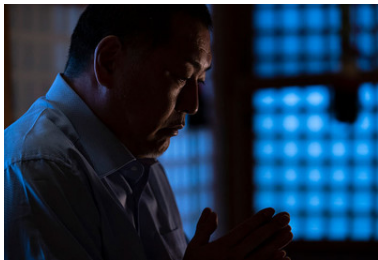
ライフ

地域

## 清原和博が現在の心境を吐露「執行猶予が明けるのが怖い」

3/3(火) 15:00配信

本がすき。



写真・宮澤正明

「自分が思い描いているものが、世間の皆さまに受け入れられなかったらと考えると、執行猶予が明けるのが怖い」

### 清原和博が語る 逮捕の瞬間の記憶

元プロ野球選手の清原和博氏が1日、東京・神田明神ホールで行われた厚生労働省主催の「依存症の理解を深めるための普及啓発イベント」に出席し、現在の心境を吐露した。

現在は薬物依存に悩む人々による自助グループで治療中。過去の治療については「薬物依存度が大きく、副作用でうつ病にもなった」と告白した。

好評発売中の対談集『魂問答』でも、僧侶・鈴木泰堂氏とのやりとりのなかに、うつ病の辛さが滲み出していた。



写真・宮澤正明

鈴木 最初のころの電話で清原さんよく、こう言っていましたよね。

「自分が生きてる理由がわからないんです」  
ときには、電話口で言葉を発することができないようなこともあった。

30分間ずっと、僕のほうからある意味、一方的に、清原さんに向かって問いかけているんだけど、僕の耳には清原さんの吐息だけしか聞こえてこなくて……。

清原 ええ、そんなこともありましたね……。

鈴木 それで、30分後にやっと、清原さんの声が聞こえてきたと思ったら、たった一言だけ、「死にたいんです」って。

清原 あのことろの僕は、もう朝も昼も夜もなく、いつも目の前は真っ暗闇で。まったく光が見えないなか、長い1日がずっと続いていく……、長く真っ暗なトンネルのなかにいるような、そんな毎日でしたから。

「こんな日が、いったいいつまで……いつまで続くんやろ？」

そう思うと、本当に生きてる理由が……、自分が生きていることの意味が、まったくわからなくなってしまっ

清原氏の命を繋ぎとめていたもの、それは愛する息子たちへの思いだった。

清原 それでも、なんとか生きてこられた、死ぬことを思い止めることができたのは……、やはり二人の息子の存在が大きかったと思います。

「息子たちに会いたい、会えるようになるまで頑張りたい」

その思いだけでした。その思いだけでなんとか生きてこられたんです。それだけを希望に、真っ暗な闇のなかを彷徨い続けていたんです。

清原氏の逮捕から4年、執行猶予が明けるまでは、あと3ヶ月ほど。

現在の彼は、鈴木氏の支えのほか、自助グループに参加するなどして、回復を図っている。

この日のイベントでは「年に何回かは現実逃避でお酒を飲んで後悔したが、自助グループとつながってからは酒量も減った」と、感謝の言葉を口にした。

この日は、同じく覚醒剤事件で逮捕された俳優・高知東生氏や、NHK「おかあさんといっしょ」の元歌のお兄さんで歌手・杉田あきひろ氏、危険ドラッグ事件で逮捕された元NHKアナウンサー・塚本堅一氏も登壇。清原氏を含めた4人は同じ2016年に逮捕されていた。

「ギャンブル依存症問題を考える会」代表で、トークセッションの進行役を務めた田中紀子氏が壇上の4人を「花の2016年組なんです！」と紹介すると、新型コロナウイルス対策の「無観客イベント」ながら、関係者や報道陣から笑い声が上がった。

本音で語り合える仲間と支え合いながら、「回復に向かって前進している」と話す清原氏。その顔からは、朗らかな笑みがこぼれていた。